

進路説明会挨拶

本日はお忙しいところご来校いただきありがとうございます。校長の矢野でございます。

お子様の進路につきましては、皆さんの最大の関心事であるとともに、最も不安を抱えておられるであろうと思います。学校といたしましても、保護者、お子さんの不安に寄り添い、支援していけるよう全力を尽くしていきたいと思っております。

さて、進路についての詳しい説明は進路担当の新堀に譲るといたしまして、私からは進路に向けまして、5点、お話ししたいと思います。

1つ目は「推薦入試」の件です。推薦は学校として、成績はもちろんですが、“人物”として推薦できるかということを中心に大きな推薦基準とし、校内推薦委員会、校長判断を経て推薦となります。申し出＝推薦とはならないこと、推薦されても即合格とは限らないことをお知りおきください。

2つ目は「進路に向けて、お子さんとの話し合いをしっかりと重ねておいてください。」ということです。子どもに何を聞いても「別に、うん、うるさいなあ、わかっとう。」など話にならないことを苦慮されてる親御さんも多いと思います。そしてやがて親は話しかけるのがしんどくなります。子どもの方も進路に不安があつて、本当は親と話したいのに話せず、ずるずる日にちだけが経ってしまうことがあります。しかしこれが危険です。そういうご家庭ほどコロコロ志望校がかわったり、合格した学校に「やっぱり行かへん」とか、「俺は本当は〇〇に行きたかったんや！」となりがちです。互いに話せる雰囲気づくりを大切にしながら、親子の合意形成をお願いします。

3つ目は経済的な部分です。「うちは公立しか行かされへんで」という言葉が励ましにつながっているか、プレッシャーとなっているか見極める必要があります。また進学先が決まってから「費用が…」と困っておられるご家庭も見てきました。先ほどの話になりますが、内容によってはお子様と腹を割って話さなければならないことも出てくるかも知れません。

4つ目は外部のクラブや習い事から監督、コーチが進路先に口をきいてくれることがあった場合、保護者の皆様もそれで合格したと思いがちです。しかし学校外の方とクラブ顧問との話で入学決定とはならず、最終的には必ず学校と学校の話になります。ですから「今、こんな話があるのですが…」と必ず学校に教えてください。

最後5つ目は、休み等を利用してお子さん自身で受験先に行けるよう確認しておいてください。受験当日、慣れない満員電車で仲間とはぐれてしまったということは、実はよくあるのです。「連れて行ってもらう」という考え方では失敗します。「何かあっても自分で行ける」練習をしておいてください。

以上です。学校側もお子さんの希望が実現するよう、ご家庭と連携して精一杯努めていくつもりです。どうぞよろしくお願いいたします。これで私の挨拶を終わります。